【高等学校用】

令和３年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	佐賀県立厳木高等学校
1　前年度 評価結果の概要	**・重点目標は概ね達成できたが、基礎学力の向上については少人数指導及び習熟度別指導に加え、PDCAサイクルを意識した取組の充実が必要である。** **・昨年度の後期より開始した「通級による指導」の充実、教職員の専門性の向上が必要である。** **・志願者増に繋がるよう、効果的な情宣活動の取組が必要である。**
2　学校教育目標	**生徒一人ひとりの個性や特性に応じたカリキュラムや体験活動を通して、地域や社会に貢献できる心豊かな人材を育成する。**
3　本年度の重点目標	**①基礎学力の定着　②部活動の活性化　③あいさつ運動の促進　④ボランティア活動の充実　⑤広報（宣伝）活動の強化**

4　重点取組内容・成果指標　**中間評価**　**5　最終評価**

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○基礎学力の定着と向上	○基礎力診断テストのD3層を各学年70%以下にする。	・基礎力診断テスト前の対策を各教科と連携して行う。 ・D3の学力レベルが持つ意味を生徒に理解させる。	B	・基礎力診断テストと夏季休暇の課題を連動させ、集会等でD3層の意味について話をすることで、生徒の学習を促した。D3層の割合は1年生が69%、2年生が48%、3年生が78%という結果であった。 ・中間評価に係る職員アンケートでPDCAサイクルを意識した授業改善が「できている」「だいたいできている」の回答が96.0%であった。	A	・基礎力診断テスト前の対策を各教科と連携して行うことができた。 ・基礎力診断テストのD3層が、1年生56%、2年生40%、3年生76%であり、中間評価の時より全ての学年での学力向上がみられた。 ・最終評価に係る職員アンケートでオンライン授業で活用できる教材開発が「できている」「大体できている」の回答が76.9%であった。	A	・職員アンケートの結果からも、PDCAサイクルを意識した授業改善に熱心に取り組まれている。基礎学力は社会に出てからも大変重要なので、今後も工夫ある取組をお願いしたい。
	○漢字カテスト及びマナトレ認定テストの実施	○漢字テストの合格者、及びマナトレ認定テストの合格者を85%以上にする。	・年間10回程度、漢字テストを実施する。 ・主要3教科にマナトレ教材の活用を、各担任にclassiにある学びなおし教材の活用を生徒に呼び掛けてもらう。	B	・漢字テストに関しては、予定通り実施できている。一方、classiの活用に関しては、活用状況の確認まではできていないが、あまり進んでいないと思われるため、今後は一層の活用のための工夫改善を図っていく。	B	・漢字テスト、漢字検定の受験は、例年通り実施できた。 ・一方、classiの活用に関しては生活面で他分掌で活用してもらっているが、学び直し等の学習補助としての活用は全く不十分であった。この点は、次年度に向けて方法を検討したい。	B	・コロナに係るオンライン授業の実施は適切であった。Classiについては、費用対効果もあるため、今後の工夫ある活用が望まれる。 ・最近の社会人の中には、満足に漢字も書けない若者がいる。身に着けさせるべき基礎学力とは何かを再検討する必要がある。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正　義感、感 動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○特別活動を活用し、生徒の自己理解並びに他者理解を促す。 ○ボランティア活動や体験活動への参加者を全体で80%以上にする。	・2,3年の選択授業「ボランティア」の選択、及び校外からの依頼等があった様々な活動を随時生徒へ情報提供する。 ・授業や校外活動への積極的な参加をその都度呼び掛ける。	B	・HR活動での活動を通して、自己理解や他者理解は少しずつ進んでいると思われる。一方、対外的には、感染症拡大防止の観点から、活動が減少して範囲が限定される内容の実施や参加生徒が限定される等のため、まだ不十分な面があると考えられる。	B	・様々な活動を通して自己理解・他者理解は進んでいる。一方、未だ新型コロナの影響で十分な校外活動ができない影響が多くで見られる。	B	・体験学習基礎等、校内外において魅力ある授業が実践されている。それに伴い、生徒のコミュニケーション能力の向上も窺える。 ・ボランティアについては、生徒に幅広い情報提供を行い、活動の場面を増やす取組をお願いしたい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「佐賀県いじめ防止基本方針」に基づいて行動できる職員を90%以上にする。	・いじめの未然防止につとめるとともに、早期発見・早期対応するために職員研修を行う。 ・集会やホームルームなどでの指導で、いじめのない学校づくりをする。	B	・「佐賀県いじめ防止基本方針」に則り、すべての教員が、生徒が安心して学校生活を送れるように、会議などを通しながら、各教員・保護者と連携して、いじめの未然防止・早期発見に取り組んでいる。 ・中間評価に係る職員アンケートで佐賀県いじめ防止基本方針及びいじめの対応が「できている」「だいたいできている」との回答は100%であった。 ・9月にいじめ問題への対応に係る職員研修、スクールサインの周知を行った。	B	・いじめの認知を13件を行ったが、各職員に内容の把握、改善に向けて迅速に取り組んでもらった。 ・担任・学年主任・管理職と綿密に連絡し、いじめ問題について対応することができた。 ・いじめ問題に係るオンデマンド研修等、計画通りに職員研修を実施した。日常の継続的な指導もあり、8月以降は全くいじめ事案は発生しなかった。	B	・いじめ問題については、13件の覚知・認知があったが、全ての事案に適切な初期対応が行われており評価している。 ・SNSについては指導の困難さがあると思われるが、良好な対人関係の構築には何が必要かということを生徒に考えさせてほしい。
	◎望ましい郷土愛の醸成	○佐賀を学ぶ時間を通して、郷土に関して理解や意識向上ができたと感じる生徒を80%以上にする。	・佐賀を学ぶ時間において「佐賀語り」あるいは他の文献や映像資料などを活用した取り組みを実践する。	C	・「佐賀語り」の活用を呼び掛けているが、十分な活用はできていない。また、講演会の実施もまだできておらず、11月実施の予定である。	A	・「講演会」及び「各種アンケート」は実施できた。 ・「佐賀語り」の活用に関しては学年内での様々な取組計画もあり不十分ではあるが、今後も活用推進を呼びかけていきたい。	A	・学校設定科目等を通じて、郷土を愛する意識が醸成されてきている。今後は、将来の地域社会への貢献としてどのようなことができるのかを学校として工夫ある取組をお願いしたい。
●健康・体つくり	●望ましい生活習慣の形成	○規則正しい生活リズムを確立させる。 ○朝食摂取率を70%以上にする。 ○むし歯保有率を50%未満にする。	・朝食アンケートを行い、生活習慣、食生活について振り返り考えさせる。 ・学校歯科医による講演会の中で、ブラッシング指導を行ってもらう。	B	・6月の朝食アンケートは、81%であった。今後も保健だより等で呼びかけたい。学校歯科医による講演会は、後期に予定している。	B	・保健だよりを発行し、規則正しい生活のリズムを確立しやすいよう工夫した。 ・むし歯保有率は51．5%となり、昨年度よりは6．3%減少している。 ・唐津市消防署より講師を招き、AEDの講習会を12月に実施した。	B	・新型コロナウィルスは、私たちに様々な課題を提起している。食事を含めた健康教育全般に関し、生徒が主体的に課題解決に向けた努力をするような取組を充実させてほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定。（毎週月曜日） ・学校閉庁日の設定。（8月11日～15日） ・部活動休養日の設定。 ・時間外自発勤務1カ月40時間以内。 ・年次休暇10日以上の取得。	B	・予定どおり8月に5日間の学校閉庁日を設け、教職員が休暇を取得しやすい環境整備に努めた。 ・中間評価に係る職員アンケートで適切な部活動休養日の設定は96.4%、時間外自発勤務1か月40時間以内は88.5%、年次休暇10日以内（見込み）は77.1%が「できている」「だいたいできている」と回答した。	A	・今年度2月までの時間外在校等時間の平均値は23時間56分であり、目標を大きく達成できた。 ・最終評価に係る職員アンケートで適切な部活動休養日の設定は96.6%、時間外在校等時間１か月40時間以内は82.8%、年次休暇10日以上の取得は77.1%が「できている」「だいたいできている」と回答した。	A	・教育に対する様々なニーズがある中で、働き方改革を推進することに大変苦慮されていると想像している。教職員の健康があって効果的な教育活動が期待できるので、先生方は自身の健康管理に十分に留意してほしい。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
○部活動	○部活動の活性化	○部活動入部率60%以上 ・部室や活動場所の整理整頓と施錠の徹底	・4月に体験入部を2日間設定し新入生全員参加。 ・部室等の使用状況の点検を年4回実施。 ・部活動ごとに、練習計画表の発行を依頼。	B	・部活動入部率56.9%である（4月末現在）。10月に再度入部状況を調査する予定である。 ・部室の使用状況を5月と7月に点検した。練習計画は、感染症対策も含め顧問に周知し適切に実施している。	A	・入部率61．9%（内訳：体育部74名、文化部61名、生徒数194名11月末現在）。運動部にへの入部が増加。行事の準備などでも学校に貢献してくれている。 ・部室点検を3回実施した。一部施錠の状態が悪く、指導を行った。感染対策の指導は通年で実施した。	B	・部活動は、実績のみで判断すべきものではない。3年間継続することが最も大事なことである。入部率の増加等、一定の努力は評価できるので、毎日の地道な活動の大切さを生徒に体感させてほしい。
○あいさつ運動	○あいさつ運動の促進	○あいさつを通して、互いを尊重し、良い関係性を確立できるよう、運動を継続する。 ・「あいさつを積極的に行っている」と感じる生徒の数を70%以上にする。	・厳木駅や通学路の清掃活動とあいさつ運動を週2回実施（生徒会および部活動の輪番制）。 ・集会時や、授業時の始まり、終わりの挨拶の徹底。	B	・あいさつ運動と清掃活動は定期的に実施した。（まん延防止等重点措置期間除く） ・各学年と連携し、日常から場に応じた挨拶を含め、将来の社会人としての心得を指導している。	A	・あいさつ運動と清掃活動は週2回実施を継続。駅の清掃では地域の方に感謝の言葉をもらうなど地域にも貢献できた。あいさつ運動に参加している生徒は意欲的に活動した。	A	・現代の、なかなかあいさつをしない若者が多い中で、厳木高校のあいさつ運動の取組は素晴らしい。次年度以降も継続をお願いしたい。 ・地元のNPO法人と連携した清掃活動についても、地域貢献として素晴らしい活動と評価できる。
○教育相談・生徒支援体制 の充実	○通級による指導の充実及び教職員の専門性の向上	○「通級による指導」に関する専門性（手続きや指導内容等の理解）が向上した教員80%以上	・部会内での指導内容等の検討会議開催。 ・「通級による指導」に関する研修会の実施。	B	・会議等を通じて、一部の教員に対しては、「通級による指導」に関する内容や生徒の様子について周知している。全職員については、11月に校内研修会の実施を予定している。	A	・10/9に、「本校の通級による指導の概要と実際」というテーマで研修会を開催した。開催後のアンケートでは、91%の職員から、指導の内容や生徒の様子について「よく理解できた」旨の回答を得た。	A	・昨年度後期から通級による指導に取り組まれ、対象生徒の就労に係る様々なスキル向上によく取り組まれている。多様な特性を有する生徒の就労に向けた取組に対し、評議員としてできる限りの協力をしたいと考えている。
○広報活動	○広報（宣伝）活動の強化	○各種学校説明会及び中学生体験入学等の行事を実施する。 ○HPのコンテンツを含め、パンフレット等の様々な広報資料が常に最新になるよう努力する。	・行事の内容方法等を改善していく。 ・すべての媒体で新しく更新できるものがあれば更新していく。	B	・各種説明会あるいは学校訪問時の説明などは全て実施できている。しかし、HPのコンテンツに関しては、随時の更新ができていないため、今後は適切な情報発信に努めていく。	A	・各種説明会等は全て実施できた。 ・HPのコンテンツの更新も、できるところから今後も進めていきたい。	A	・管理職による複数回の中学校訪問等の取組が、令和4年度高校入試の志願状況に十分に反映され、素晴らしい。HP更新は改善の余地があるため、タイムリーな情報提供に心がけてほしい。

●･･･県共通　○･･･学校独自　◎･･･志を高める教育

5　総合評価・ 次年度への展望	・学力向上に関して、PDCAサイクルを意識した授業改善については88.6%の教職員ができているが、オンライン授業のための教材開発は76.9%に止まっている。新型コロナウィルス感染症も予断を許さない状況が続いているため、授業の様々な実施形態に対応できる教職員のスキルアップに取り組んでいく。 ・来年度からの新高等学校学習指導要領の施行を踏まえ、日常の授業改善に一層取り組み、生徒の基礎学力の養成に努めていく。 ・「唯一無二の誇り高き学校づくり」「コミュニティ・スクール」を推進し、地域に信頼される学校づくり、社会に有能な人材の育成に全力で取り組んでいく。